

## 地域の漁業を支えるつながり

採用プログラム：「特定非営利活動法人海の里づくり」

### 【プログラムの概要】

本プログラムは、身近な地域の漁業を社会環境と自然環境の両面から調べ、地域に漁業が成立した背景を理解するとともに、現状を把握し、漁業のかかえている課題を多様な観点から考える。具体的には、輸入量の増大により価格が下落したこと、乱獲・環境悪化（特に浅海域）・水質汚濁・地球温暖化などによって水産資源が減ったことなどが考えられる。地域の漁業が抱える課題に対して、どのような取り組みがされているかを調べ、環境の改善や水質汚濁の防止など自分たちでできることを考え、実践する。なお、本プログラムは、「特定非営利活動法人 海の里づくり」で実施されたプログラムにESDの視点を取り入れ汎用化したものです。

### 【プログラムの所要時間】（1時間＝45分）

本プログラムには教室内学習、フィールドワーク、まとめの3つの要素がある。

教室内学習とフィールドワークは、実施するテーマや内容により異なるが、5～8時間程度を想定する。

### 【主なESDの視点】

持続可能な社会づくりの構成概念						ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度						
Ⅰ 多 様 性	Ⅱ 相 互 性	Ⅲ 有 限 性	Ⅳ 公 平 性	Ⅴ 連 携 性	Ⅵ 責 任 性	① 批 判 的 に 考 え る 力	② 未 来 像 を 予 測 し て 計 画 を 立 て る 力	③ 多 面 的 ・ 総 合 的 に 考 え る 力	④ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を 行 う 力	⑤ 他 者 と 協 力 す る 態 度	⑥ つ な が り を 尊 重 す る 態 度	⑦ 進 ん で 参 加 す る 態 度
○	○	○		○	○		○	○		○	○	

### 【ESDの目標】

#### （1）構成概念

- ・藻場、干潟、岩礁など多様な環境が、地域の漁業資源を増大。（Ⅰ多様性）
- ・漁業には、海洋資源を豊かにするための自然環境の保全や地域の他業種との関わりなどが不可欠。（Ⅱ相互性 Ⅴ連携性）
- ・地域の漁業資源は、乱獲や環境の悪化によって変動。漁獲量の規制や環境保全などによる資源の管理が重要。（Ⅲ有限性 Ⅵ責任性）

(2) 能力・態度

- ・地域の漁業をつうじて、地域の自然環境や産業などの将来を描く能力を養う。(②未来)
- ・地域の漁業が様々な産業や自然環境と、それを保全する活動等とかかわっていることを理解し、ものごとを多面的総合的に考える能力を養う。(③多面的総合的)
- ・地域の漁業が様々な主体との連携によって成り立っていることを理解し、積極的に他者と協力する態度を養う。(⑤協力)
- ・地域の漁業と地域の自然環境や産業の立場や環境を理解・尊重する態度を養う。(⑥つながり)

**【学習指導要領による関連教科】**

**社会**

5年生

- (1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。
- (2) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもつて営まれていることを考えるようにする。

**理科**

(1) 植物の発芽、成長、結実

植物を育て、植物の発芽、成長及び結実の様子を調べ、植物の発芽、成長及び結実とその条件についての考えをもつことができるようにする。

(2) 動物の誕生

魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりして、卵の変化の様子や水中の小さな生物を調べ、動物の発生や成長についての考えをもつことができるようにする。

**【教科・単元の関係】**

	教室内学習	フィールドワーク	まとめ
<b>社会</b>	・地域の漁業が発達した要因や特徴を理解し、現在抱える問題や課題等について理解・学習する。	・地域の漁業について、実際に見聞して理解を促す。	・地域の漁業と、それを取り巻く産業や生活、自然環境等について理解を深める。
<b>理科</b>	・地域の漁業やそれを取り巻く自然環境等について理解・学習する。	・地域の海洋環境の保全に努める活動（藻場の再生、魚礁づくり等）を実際に体験し、海とそれらを取り巻く自然環境の関係について理解を深める。	

総合			<ul style="list-style-type: none"><li>・ これまでに学んだことを踏まえて、地域の漁業やそれを取り巻く自然環境などを、今後保全していくために自分たちに何ができるか、何をすべきか等について話し合い、地域の人々の取組等とどのように連携できるか話し合い、意見を共有する。</li></ul>
----	--	--	--

【プログラムの流れ】（1時間＝50分）

学習のねらい・取組例	教材等
<p style="text-align: center;"><b>地域の漁業について、教科書やインターネットを使って調べてみましょう。</b></p> <p><b>【教室内学習】</b></p> <p>自分たちの地域の漁業と関連する産業について理解・学習する（2～4時間）</p> <p>[取組例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの地域の漁業に関する情報を収集し、魚種や漁獲量、漁獲時期や漁獲手法の変化・歴史等について学習する。（社会）</li> <li>・漁業と関わりをもつ産業や生活等が、どのような役割をもっているか調べ、学習する。（社会）</li> </ul>	<p>□教科書</p> <p>□参考書等</p>
<p><b>【フィールドワーク】</b></p> <p>漁業と関わりをもつ産業や生活等を実際に体験・見聞し、従事する方々の話などから漁業や地域の海洋資源、また地域の自然環境等について、どのような考えを持っているかを知るとともに、漁業従事者の方の話から、こうした産業や生活等をどのように捉え、考えているか、また地域の中でどのような捉え方や考え方をもって取り組んでいるか等について理解を深める。</p> <p>可能であれば、実際に漁業に関する作業や漁業に係る環境保全活動等を体験することでより理解を深める。（3～10時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①漁業と関わりをもつ産業・生活等の見聞</li> <li>②関わる産業・生活等の従事者の考えや実務体験について</li> <li>③漁業従事者から関わる産業・生活等との関わり方や捉え方、考え等について</li> </ol> <p>[取組例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で取り組んでいる植林活動の従事者から活動内容と考えを伺う。</li> <li>・地域で取り組んでいるアマモや海藻の保全活動に参加し、従事者から活動内容や考えを伺う。</li> <li>・地域の漁業従事者から、関わる産業や活動に対する考えや捉え方等について話を伺う。</li> </ul>	<p>□ワークシート等</p> <p style="text-align: center;"><b>漁業に関わる施設見学や漁業体験を通じて、理解を深めてみましょう。</b></p>
<p><b>【まとめ】</b></p> <p>地域の漁業や漁獲される魚などの海洋資源、それらを取りまく自然環境を今後、保全していくために自分たちに何ができるか、何をすべきか等について、考えを話しあったり、自分たちができる行動計画等を作成するなど、これまでに学んだ地域の人々の生活や考え方とどう関わっていけるか考える。</p> <p>[取組例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の漁業の持続的な発展の方策と自分たちができることを考えて意見を共有する。（社会）</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>【教室内学習】【フィールドワーク】で学んだことを通じて、自分たちになにができるか等、みんなで話し合っ、行動計画等を作成してみましょう。</b></p>

## 【実施者マニュアル例】

内容	進め方・留意点
<p><b>【教室内学習】</b> ①地域の漁業を調べよう（2時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三陸沿岸を例とする場合、黒潮や親潮等の海流の特徴や魚種の豊かさ、栄養塩類の豊かさなどが挙げられ、こうした三陸の海における漁法の特徴や漁獲高の推移・漁獲時期などを調べる。</li> </ul>
<p><b>【フィールドワーク】</b>（計6時間） ①漁業に関わる施設を見学しよう（2時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の漁港や魚市場のほか、孵化場、養殖場、水産物加工場など漁業と関わりのある施設、また、植林活動や川の保全など海の保全に関わる活動や施設などを実際に見学し、活動内容や地域の漁業に対する考え方などについて話を聞いて理解を深める。</li> </ul>
<p>②地域の漁業を体験しよう（4時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で取り組んでいる海の保全に関わる活動（藻場の再生や魚介類の養殖、サケの人工ふ化など）を実際に体験し、こうした活動が地域の漁業と深く関わっていることを理解する。</li> </ul> <p>（体験学習は、可能な限り継続的に関わることで、藻場の再生や養殖等の生物の成長過程を実感することができ、より理解が深まる）</p>
<p><b>【まとめ】</b> 地域の漁業とそれらを取り巻く環境を理解し、自分たちの関わりを考えよう（1時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の漁業が、どのような形で支えられているかを理解し、自分たちができることを考える。</li> <li>・地域の漁業や海について、自分たちが出来ることを行動計画等にまとめ、地域で活動する人々とどう関わっていくことができるかを考える。</li> </ul>

※個々の「内容」についてはI～VI、個々の「進め方・留意点」については①～⑦のそれぞれ何を主眼とするか意識して実施する。